

21世紀究極のクルマ改造本!

G-works

ジーワークス

全開を楽しむGT-R

G-works

箱スカ

S20エンジン 300ps

突入の! 時代へ!

2012
12
定価 580円

GT-R

KPGC10



旧車ホイール
マッチング **BMI**



中古キャブ選び



ハチロク道
最新インジェクターを検証

見た目も!性能も!

特集 引っ張りタイヤを科学する

エンジン

愛知・ロッキーオート
HLS30

石川編集長の
乗ってみなきゃ
わかんねーゾ!!

ロッキーオート
渡辺社長

600ps over

1972年式 DATSUN FAIRLADY Z HLS30

アメリカンV8ターボ を載せた

240Zの實力は!?

今回の馴染み深いS30だけど、これはただのZではありません!!上のエンジンルームを覗いてみると分かるように、見慣れたL型エンジン搭載ではなく、V8エンジンを積んでいる!! まで幅をきかせたV8が搭載されている!! ベースとなるS30はよく見ると左ハンの240Zだから、アメリカでは比較的多く見受けられるエンジンスワップ。しかし、ちょっと見たことのないくらい大きいものが、リジエターの横に鎮座している。そう、そのアメリカンV8に240Zのターボがついている。果たしてどのような乗り味なのだろうか。

カッコ良く、速くなくてはならないチューニングカー。その姿を見ればカッコ良さはすぐに分かるけど、速さはエンジンの作りやパーツ選択、スペックなどで想像するしかない...それだけではイマイチ納得できない貴方へ、じゃ、乗ってみるか!!というノリで始まった“石川編集長の乗ってみなきゃわかんねーゾ”コーナー今回は!!

ビッグエンジンに
ビッグタービン!?

どんなものだって使ってみなきゃ、良さは分からない!!

と、いつもの決まり文句で始まる、乗って見ななきゃわかんねーゾコーナー。今回は思い出したみたく、いきなりはじめますよ。

今回は馴染み深いS30だけど、これはただのZではありません!!

上のエンジンルームを覗いてみると分かるように、見慣れたL型エンジン搭載ではなく、V8エンジンを積んでいる!!

まで幅をきかせたV8が搭載されている!!

ベースとなるS30はよく見ると左ハンの240Zだから、アメリカでは比較的多く見受けられるエンジンスワップ。

しかし、ちょっと見たことのないくらい大きいものが、リジエターの横に鎮座している。

そう、そのアメリカンV8に240Zのターボがついている。

果たしてどのような乗り味なのだろうか。



SIDE



REAR



FRONT

房上がりてドラッグチックな外観は意外と大人しい。リヤスカート部分にマフラーの切り欠きがあるが、これは以前使っていたものだろう

マフラーの取り回しが男らしいぜ!!

排気量を考えると妥当?の大きさのタービン



エンジンとラジエターの間に排気管やインタークーラー系が集中する。効率やスペース的な事を考えてのことだろう

ラジエター前にはインタークーラーが置かれ、出来るだけバイパスを短くし、レスポンス向上を狙っている。ラジエター付近は排気管がまとまっている理由が、ターボやインタークーラーの排気管が、マフラーの出回りはなんとフロントタイヤ前、要するにマフラーはエンジンから後方には入らない構造だ。

DATSUN FAIRLADY Z HLS30

超大型タービン+ 5700ccの威力は



乗る前にもう少しクルマをチエックする。まあそれにしてはタービン。このタービンメーカーは日本では一般的ではないので商品名を言ってもピンと来ないだろうけれど、風量的にはHKSだとT51RKAやトランスナS88クラスよりも大きいだろう。見た感じは以前のT10タービンシリーズ「8」よりもまた回りくわしい感じがして、分りやすいかな?そんな大きいタービンを回すのは難しいけれど、排気量が5700ccもあり、全く問題なし。Turbochargerの音も結構なレベルで聞ける。

定回り



燃料タンクはトランクの後ろに取り付けられている。ここからフロントまで排気管が流れている。



燃費タンクにはホッピングが重取り付けられている。ここからフロントまで排気管が流れている。



Making of Rocky Auto

後ろを覗くと現れるリヤデブ回り



ミッションはアメリカで製作されただけあって、AT仕様。この仕様だと実際ATの方がドラッグの場合、速いことが多い



ドライブシャフトも等長タイプが入れられ、スタート時の強力なトラクションとトルクに耐えられる構造



バックギヤはまずこのボタンを入れてから。操作方法を聞かないと動かすのも躊躇してしまう

パワーがあるだろうけど、それじゃつまらないって言うつもりでこのタービンを付けちゃったという感じかな?とにかくこの組み合わせで遅いわけがないって考えながら車体まわりを見回していくと、どうやら下ラッグレースを想定したクルマ作りになっているのが分かってくる。尻上がりなスタイルはリヤのトラクションを稼ぐ手法、リヤタイヤはナローエンターの中にドラッグタイヤを履く。間違いなく、ドラッグ仕様だね。軽量の車体に大排気量、大パワーのエンジンを搭載したというだけでも、ソクソクしてくる。そのままリヤ回りを覗いてみると、スベアタイヤハウスが取り除かれ、デフ回りが一望!!ロアアームこそS30のノーマルがついているけど、デフマウントにアルミ削りだし材を使用したデフキャリアはさすがに大型化され、話しによればQ45用だという。さすがにこのパワーを受け止めるにはR200でも無理なんだろうね...ここまで作り込まれたS30、走りにかなり重点を絞って製作されているのが分かってきたのだ。



サイドミラーはS30の輸出仕様純正品。基本的に運転席側(左側)にしか装着されない



フロントタイヤはドラッグ仕様らしく直進安定性を出すためかなり細いタイヤ(165/80-15)を履くが、リヤタイヤはミッキートンブノンET STREETを装着する

石川編集長の
乗ってみなきゃ
わかんねーゾ!!

愛知・ロッキーオート HLS30

室内

エンジンが過激な仕様だけど、外観と合わせてわりと落ち着いた雰囲気で作られている室内。黒を基調としてノーマルのいじりかたを残して作られている



搭載したエンジンの凶暴さを隠した落ち着いた雰囲気追求しているゼロヨン仕様 S30

ロールケージはサイドバーが追加された6点式を装着されて安全性も考えられている



スピードメーターとタコメーターは、白地のファントム製に交換されている



S30の特徴でもあるセンターの3連メーターはオートメーターの油圧・水温・ブースト計に交換されている



↑ダッシュボードにはシフトライトがつく→シートは2脚ともBOMZレーシングを装着

スマートにエンジンルームに収まる

パワーバルジがついているわけでもなく、ボンネットが浮いているでもなくS30のエンジンルームにすっきりと収まるV8 5700ccエンジン。いよいよそのエンジンを始動するためエンジンキーを捻ると、大排気量OHVは簡単に目を覚ますが大型のタービンがついているので、それが消音効果となり排気音は意外と静か。ちょっと拍子抜け感もあつたけどやっぱり振動というか、空気の響きというかただ者ではない感覚は運転席に伝わってくる!!やはりこの感覚はチューンドカー独特のもので、緊張感も高くなってくる。

しかしミッションはATだから、何の気兼ね無しにDレンジへ入れて進むことが可能。アクセルを踏み込むと以前試乗したスーパーチャージャーS30と近い感覚かな? アクセルをちょっとずつ踏んだり、緩めたという繊細に操作するというものではなく、がばっと踏み込むとゆっくりと進む感覚。ラフにアクセルを踏み込めるレスポンス感。アクセルとエンジンが直結しているようなレスポンスではないので、低速域ではトルクの厚さは感じにくいけど多少スピードに乗ってるとその凶暴さを発揮!!尻上がりのスタイルも重いV8エンジンを搭載にもかかわらずアクセルを踏み続けると、ノーズを上に向けて猛突進!!テフがドラッグ仕様のためのロックしているの、ステアリングを切ると失速感があり、とても曲がるためのクルマではないのが分かるけど、この加速力はハンパ無い!!一般道ではこれ以上踏み込めないほどの実力だから、加速を味わいながら余韻に浸る。ゼロヨンを走ったならこの状態でも12秒台は確実なくらいの加速力。

協力ショップ ロッキーオート



日本の中心とも言える愛知県・岡崎市に位置するロッキーオートは、フルオリジナルの極上車からフルチューン仕様まで多岐にわたり、ユーザーの要望にあったクルマ作りのお店。基本的に全てのクルマの試乗が可能だから、乗って感じられるのもロッキーオート渡辺社長の目指すところだ

愛知県岡崎市明大寺町字大塚
55-31
TEL:0564-58-7080



DATSUN FAIRLADY Z HLS30

リヤからのアングルがこのクルマの性格を表しているけど、乗ると意外にも乗りやすく直線を強烈な速度で走ってくれる。目頃のストレスもこのS30に乗るだけで忘れさせてくれること間違い無したね!



ペダルはATなので2ペダル。ノーマルのクラッチペダルを外した状態。イーゼードライブが可能なのだ



V8エンジンの点火系はMSD 6SLを使用。C/Pもアメリカで装着されたもので制御されている